

全国大会佐賀大会レポート

プランディング委員会

委員 矢野貴大

私の人生で3度目の訪問となる博多の夜は多くの人であふれ、活気と音に満ちていた。道行く人々の言葉も日本語のみならず、多言語らしきものも聞こえ、アジアからの観光客が非常に多いという印象を感じました。一方、最終日の佐賀への道中では広大な山々や自然を車窓から眺めながらの移動であり、閉幕式で佐賀にはリピートしたくなるような自然の観光名所が多々あると紹介されていたのも納得の風景でした。私は二日目のLOMナイトからの参加だったため、来年神戸で開催される全国大会ではセミナーを含め最初から体験させていただきたいと思っております。ただ、まだ入会歴が浅い私としては、二次会も含め今年卒業される現役の方と、お酒を交えながら多くのお話を伺うことができ非常に有意義な時間を過ごせました。全国大会のスケジュールで参加できたのは最終日の閉会式及び解団式のみでしたが、3年という長い時間かけて、全国大会の準備から最終日までやり切った佐賀JCの方々の涙ながらの熱いスピーチにグッと胸にくるところがありました。また一方で、私自身、これからの活動において、ここまで熱い思いをもって、事業に臨まねばならないというやる気も芽生えました。解団式の際に少し残念だと感じたのは、全国のLOMが呼ばれる際に、すでに退室してしまっていたLOMが複数あったことです。最後呼ばれるタイミングでいないというのは非常にかっこ悪いなという印象を受けたので、全国大会に限らず、このような行事で、全員中抜けするということはなくしていくべきだと感じました。また、司会の進行に少しバタつきがあったところも見受けられました。これについては規模の大小を問わず、四日市JCの事業でも司会進行する場面は多々あるので、入念に準備をする必要性があると再認識することができました。

メインのスケジュールには参加ができませんでしたが普段話す機会が少ない理事長を始め、最終日まで参加していたメンバーとコミュニケーションを多くとれて、少しでも仲を深めることができたのは非常に良かったと感じております。来年は国際涉外の委員としての役割もこなしながらになりますが、初日から全国大会に参加できるのを今から楽しみにしております。

